

授業科目： 老年看護学実習Ⅰ（入院中の高齢者の日常生活を支える看護）

科目目標： 入院している高齢者の日常生活を支える看護が実践できる。

行 動 目 標	内 容	方 法
1 高齢者および家族と良好なコミュニケーションを図ることができる。	1) 傾聴する態度 2) 自尊心の尊重 3) 生活信条・信念・価値観を尊重した対応 4) 理解力や認知力、ペースに応じた対応 5) 感覚機能低下への配慮 6) 患者・家族への共感的態度	<ul style="list-style-type: none"> ・急激な変化がなく、言語的または非言語的なコミュニケーションが可能な後期高齢者を1名受け持つ。 ・加齢変化を考慮したコミュニケーションを行う。
2 高齢者の加齢に伴う変化、健康状態が日常生活に与える影響をアセスメントできる。	1) 加齢に伴う身体・精神・社会的変化 2) 疾患の経過と治療方針、治療内容 3) 症状とその現れ方 4) 合併症や廃用症候群の出現の有無 5) 現在の日常生活動作の状況 6) 入院前の生活習慣・生活機能 7) 認知力、理解力 8) 回復意欲、自発性 9) 価値観、信念 10) 社会的役割、経済状況 11) 家族関係、介護力	<ul style="list-style-type: none"> ・「転倒・転落アセスメントシート」「ブレーデンスケール」を活用する。
3 高齢者の特徴および個別性を踏まえた日常生活援助が実践できる。	1) 生活機能の維持または自立に向けた援助 (1)回復段階と機能障害の程度に応じた日常生活援助 (2)強みを生かした援助 (3)廃用症候群予防の援助 (4)事故や危険性を予測した安全な援助 (5)活動と休息のバランスを考えた援助	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に関する援助を中心に計画・実施する。 ・問題にのみ着目するのではなく、強みも生かす。 ・臨地で高齢者の安全を守るためのカンファレンスを実施する。 ・実践活動外学習で、高齢者への日常生活援助における安全対策について検討する。
4 高齢者への看護を通しての学びを述べることができる。	1) 加齢に伴う円熟と衰退 2) 高齢者のイメージと変化	<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスおよび考察で学びについて述べる。